

# 音楽科指導案

日 時：平成24年10月4日（木）5校時  
学 級：北上市立北上中学校2年E組  
（男子21名 女子16名 計37名）  
場 所：北上中学校 第1音楽室  
指導者：齋藤 ルミ子

## 1. 題材名 「Let's try ボディパーカッション！！」（表現・創作）

### 2. 題材について

本題材では、学習指導要領における指導事項 A 表現・創作「イ 表現したいイメージを持ち、音素材の特徴を感じ取り、反復、変化、対照などの構成を工夫しながら音楽をつくること」と、共通事項「ア 音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成などの音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらが生み出す特質や雰囲気を感じ受すること。」のうち「音色」、「リズム」、「速度」、「テクスチャ」「強弱」を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ受しながら、音楽で表現したいイメージをもち、音素材の特徴を感じ取って構成を工夫し、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもって創作に取り組むことをねらいとしている。

そこで、これまでの既習事項を確認した上で、比較的容易に取り組める2声部、4分の4拍子、8小節のリズムアンサンブル曲に着目した。構成については、テクスチャ（声部の重なり）に的を絞り、「追いかかけ型」、「分割型」、「同時進行型」などの型を用いた。

取り組みとしては、まずはじめに個々に創作に取り組みさせたものを持ち寄り、グループでひとつの曲を仕上げる方法をとった。これにより、個々の学習の定着を図りつつ、グループ活動で互いのよさを発見し、認め合い、学び合いながら学習の理解・深化を図ることができると考えたからである。

さらには、自作のアンサンブル曲を演奏する上での醍醐味でもある「ぴったり合わせて」演奏できるように練習することにより、アンサンブルのもつ楽しさを味わいつつ、技能の習得も目指したいと考えた。リズムについては、4分音符、8分音符、16分音符、4分休符、8分休符などこれまでに既習した音符や休符でつくったリズムパターンを自由に組み合わせて創作することとした。

こうして完成したアンサンブル曲をグループで何回も演奏(手拍子)することにより、その曲のもつ雰囲気やイメージを感じさせ、そこから曲名を考えさせた。そして、聴き手にしっかりと自分たちの曲に対する思いを伝えるために、メトロノームを使って速度を工夫したり、強弱をつけることにより音色を変化させたりすることで、曲のもつ雰囲気やイメージが明確に伝わるように完成させることを目指した。

この学習を通して、強弱や速度、音色の違いによって、曲のもつ雰囲気やイメージが変化することを体感させたいと考える。

また、生徒達の身近にある音に対する感性を育むため、身体（ボディパーカッション）を音素材とし、これらの特徴を知覚・感受するとともに、表現したいイメージを持って全体のまとまりを工夫しながら音楽をつくっていくことをねらいとし、本題材を設定した。

### 3. 生徒について

歌唱や鑑賞、器楽などの音楽活動には、比較的素直に取り組める生徒が多い。しかし、全体的には音楽を通して、積極的に聴き手に思いを伝えたいとか、曲や演奏について自分なりの思いをもって表現したいというところまで至っておらず、表現力が十分ではない。創作の分野においては、階名読み、音符や休符の種類や記譜、拍子、反復記号、強弱記号などの基礎的学習内容については、苦手意識を強く持つ生徒が多く、取り組みも消極的であった。しかし、実際にそれらの既習事項を活用して、創作の活動に入り、頭に思い描いた曲が、音となり形を成した時、「楽しい」「うれしい」と感じるができる生徒が少しずつではあるが増えてきている。「創作」する上で、きまりや枠にこだわりすぎず、グループごとにイメージしたことを試しながら音に表現していくことにより、最終的には、思いをもってつくることの「楽しさ」、思いをもって演奏することの「楽しさ」を体感できるように進めていきたいと考える。

#### 4. 題材の目標

##### 【観点1】

①ボディパーカッションの演奏方法に関心をもち、主体的に創作活動に取り組んでいる。

##### 【観点2】

①ボディパーカッションのさまざまな音素材の音色を知覚し、その働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら演奏方法の組み合わせを工夫している。

##### 【観点3】

①音楽表現をするために必要なリズムの組み合わせ方や記譜の仕方などの技能を身につけ、リズムアンサンブル曲をつくっている。

②ボディパーカッションの技能を身につけている。

#### 5. 題材の指導計画

時間	学習活動	評価規準		
		音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
1	・創作に必要な事項（音符・休符・拍子など）について復習する。 ・2声部、4分の4拍子、8小節のリズム曲を創作する。			①音楽表現をするために必要なリズムの組み合わせ方や記譜の仕方などの技能を身につけ、リズムアンサンブル曲をつくっている。
2 3	・6人~7人グループで、2声部 ・4分の4拍子8小節リズムアンサンブル曲を創作する。			①音楽表現をするために必要なリズムの組み合わせ方や記譜の仕方などの技能を身につけて、リズムアンサンブル曲をつくっている。
4	・リズムアンサンブル曲を完成させる。			①音楽表現をするために必要なリズムの組み合わせ方や記譜の仕方などの技能を身につけて、リズムアンサンブル曲をつくっている。
5 本時 ・ 6	ボディパーカッションで表現を工夫する。	①ボディパーカッションの演奏方法に関心をもち、主体的に創作活動に取り組んでいる。	①ボディパーカッションのさまざまな音素材の音色を知覚し、その働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら演奏方法の組み合わせを工夫している。	
7	完成したオリジナルのボディパーカッションを練習し、お互いの作品を発表し合う。			②ボディパーカッションの技能を身につけている。

#### 6. 本時の指導

##### (1) 本時の目標

- ・ボディパーカッションの演奏方法に関心をもち、主体的に創作活動に取り組む。
- ・ボディパーカッションのさまざまな音素材の音色を知覚し、その働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら演奏方法の組み合わせを工夫している。

## (2) 本時の授業構想

[説明する]では、これまでの手拍子によるアンサンブル演奏からさらに表現の幅を広げ、ボディパーカッションによる演奏があることを理解させ、強弱と音色の関係に着目させる。

そして、[理解確認]では、簡単なリズムアンサンブル曲を示し、f部分をボディパーカッションで表現する練習を行うことにより、ボディパーカッションによる創作の理解の定着を図る。

さらに、[理解深化]として、自作のアンサンブル曲の雰囲気やイメージに基づきながら、f部分をボディパーカッションで表現の工夫をさせる。本時では、はじめてのボディパーカッションとの出会いとなるため、f部分の演奏方法の工夫に的を絞り進めたい。そして、次時にp部分、さらにクレッシェンド部分などの演奏方法の工夫を行い、ボディパーカッションによるリズムアンサンブル曲の完成を目指したい。

これらの取り組みを通して、思いや意図をもって仲間と音楽をつくり、共に表現することの楽しさや成就感を体験させるとともに、思考力や表現力の育成を目指したい。

## (3) 評価の観点と評価規準

生徒の学習状況	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する生徒への手立て
具体的評価規準			
① ボディパーカッションの演奏方法に関心を持ち、主体的に創作活動に取り組んでいる。	ボディパーカッションの演奏方法を自ら色々と試す中で、その組み合わせについて明確な意図をもって主体的に創作活動に取り組んでいる。	ボディパーカッションの演奏方法を自ら色々と試したり、友達と互いに交流したりしながら意欲的に創作活動に取り組んでいる。	進んでいる他のグループの作品を紹介する。
① ボディパーカッションのさまざまな音素材の音色を知覚し、その働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら演奏方法の組み合わせを工夫している。	ワークシートに音素材の音色の特徴と強弱との関わりを書きながら、それらをどう対応させたか組み合わせの工夫を書き、曲に対する明確なイメージを持っている。	ワークシートに音素材の音色の特徴と強弱との関わりを書きながらそれらをどう対応させたか、組み合わせの工夫を書いている。	音素材の音色の特徴について考えさせ、強弱との関わりから、自作のアンサンブル曲のイメージに合う組み合わせを選ばせる。
① 音楽表現をするために必要なリズムの組み合わせ方や記譜の仕方などの技能を身につけ、リズムアンサンブル曲をつくっている。	「追いかけて型」「分割型」「同時進行型」などを生かしたリズムの組み合わせでつくっていることが作品に表れているとともに、それを正確に楽譜に書いている。	「追いかけて型」「分割型」「同時進行型」などを取り入れたリズムの組み合わせでつくったことが作品に表れている。	「追いかけて型」「分割型」「同時進行型」などのいくつかのリズムパターンを示し、その組み合わせから選ばせて作品をつくらせる。
② ボディパーカッションの技能を身につけている。	自作のアンサンブル曲にふさわしい音楽表現をするために必要な奏法や身体の使い方をしっかりと身につけており、それがボディパーカッションの演奏に明確に表れている。	自作のアンサンブル曲にふさわしい音楽表現をするために必要な奏法や身体の使い方を身につけ、それらがボディパーカッションの演奏に表れている。	奏法や身体の使い方に関して、ペアやグループになって確認させたり、一人ひとりに具体的なアドバイスをを行う。

(4) 本時の展開

段階	学習活動と留意点	評価等				
教える	<p>教師の説明 (10分)</p> <p>① オリジナルアンサンブル曲を手拍子で練習してきたこれまでの活動を振り返る。 ・事前アンケートを提示する。</p> <p>② ボディパーカッションを理解する。 ・DVDを見せてボディパーカッションのイメージを持たせる。</p> <p>③ 本時の目標を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">ボディパーカッションを使って、いろいろなfの演奏方法を工夫しよう。</div> <p>④ 演奏方法について理解する。 ・いくつかの方法について説明する。(強弱と音色の関係)</p> <table border="1" data-bbox="399 515 981 716" style="margin: 5px auto;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">強 弱</th> <th style="text-align: center;">f</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">演奏方法</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・手で膝をたたく</li> <li>・足踏み</li> <li>・手でお尻を叩く</li> <li>・指鳴らし</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table>	強 弱	f	演奏方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手で膝をたたく</li> <li>・足踏み</li> <li>・手でお尻を叩く</li> <li>・指鳴らし</li> </ul>	<p>黒板にアンケート掲示</p> <p>DVD鑑賞</p>
強 弱	f					
演奏方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手で膝をたたく</li> <li>・足踏み</li> <li>・手でお尻を叩く</li> <li>・指鳴らし</li> </ul>					
考えさせる	<p>理解の確認 (10分)</p> <p>⑤ 簡単なリズムアンサンブル曲をボディパーカッションで練習する。</p> <p>・演奏方法を工夫する上での手順やルールを説明する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>・fが記譜されているそれぞれ1小節分を考えること。</p> <p>・曲名や作曲者の思いなどに関連させて考えること。</p> </div>	<p>ワークシート配布</p>				
理解深化	<p>理解深化 (20分)</p> <p>⑥ ボディパーカッションを使って、いろいろなfの演奏方法をグループで工夫する。</p> <p>・途中でいくつかのグループを紹介することで交流を図る。</p> <p>・決定した演奏方法についてワークシートに記入させる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><b>【発展課題】</b> 自分たちでpの部分のボディパーカッションを考えてみよう!!</p> </div> <p>・ワークシート記入後は、次回の発表会に向けて練習させる。</p> <p>・早く完成したグループ(1~2グループ)に発表させる。</p>	<p>観察・ワークシートによる評価</p> <p>(関心・意欲・態度)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>①ボディパーカッションの演奏方法に関心をもち、主体的に創作活動に取り組んでいる。</p> </div> <p>(音楽表現の創意工夫)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>①ボディパーカッションのさまざまな音素材の音色を知覚し、その働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら演奏方法の組み合わせを工夫している。</p> </div>				
自己評価	<p>自己評価 (10分)</p> <p>⑦ まとめ</p> <p>・学習した内容と感想をワークシートにまとめさせる。</p> <p>・数人に発表させる。</p>	<p>ワークシートによる評価</p>				